

2026年第2回東京競馬特別競走名解説

<第1日>

○石和特別

石和（いさわ）は、山梨県東八代郡にあった旧町名。2004年に周辺5町村と合併して笛吹市となった。桃、ブドウの栽培が盛ん。1961年にブドウ畑から温泉が湧出し、現在は石和温泉郷として発展している。

なお、同地にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ石和がある。

○鎌倉ステークス

鎌倉（かまくら）は、神奈川県三浦半島西部の市。源頼朝が幕府を開いた地として知られ、約150年の間、武家政治の中心地として発展した。現在も源氏ゆかりの史跡が数多く残り、市街の中心には鶴岡八幡宮が、周囲の山地には建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺の鎌倉五山がある。

○テレビ東京杯青葉賞（GⅡ）（ダービートライアル）

本競走は、3歳馬5大クラシック競走を頂点とする競走体系を明確にし、クラシック戦線の更なる盛り上げを図るため、1994年に重賞へ格上げされた競走。『東京優駿（日本ダービー）』と同じ距離で実施される。

なお、第2着までの馬には『東京優駿（日本ダービー）』への優先出走権が与えられる。

青葉（あおば）は、青々と生い茂った木の葉のこと。

テレビ東京は、東京都港区に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○湘南ステークス

湘南（しょうなん）は、神奈川県相模湾一帯を指す名称。一般的には葉山・逗子・鎌倉などの三浦半島・茅ヶ崎・大磯などを含む地域のことを言う。温暖な気候と長い海岸線に恵まれ、夏には、海水浴やマリンスポーツ、ドライブなどを楽しむ人々で賑う。

○オアシスステークス（L）

オアシス（Oasis）は、砂漠中に泉が湧き出て、その周囲に草木が生い茂っている緑地。ラクダで砂漠を横断する隊商の休息所とされる。また、「安らぎの場所」という意味もある。

○サンケイスポーツ賞フローラステークス（GⅡ）（オークストライアル）

本競走は、1966年に『優駿牝馬（オークス）』のトライアル競走として創設された重賞競走。当初は芝1800mで実施されていたが、1987年にオークストライアルとしての性格をより明確にするため、2000mに延伸された。

なお、第2着までの馬には『優駿牝馬（オークス）』への優先出走権が与えられる。

フローラ（Flora）は、ローマ神話に登場する、花と春と豊穰を司る女神の名。また、ある特定の地域もしくは時代に生育する各種植物の全種類の意。

サンケイスポーツは、産業経済新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○是政ステークス

是政（これまさ）は、東京都府中市南部の地名。東京競馬場に隣接する多摩川北岸にある低地で、砂利採取場跡を利用した多摩川競艇場が有名。名は、1590年に北条氏照の家臣であった井田是政が、府中の地に移り住み村を開いたことに由来する。東京競馬場の3～4コーナーの馬場内にある通称大欒の木の下には同氏の墓があり、都指定の文化財となっている。

○スイートピーステークス（L）（オークストライアル）

スイートピー（Sweet Pea）は、マメ科の蔓性の一年草。イタリアのシチリア島原産で、葉の脇に大形の紅・桃・紫・白色などの蝶形花を付ける。花言葉は「出発」「小さな喜び」。

なお、第1着馬には『優駿牝馬（オークス）』への優先出走権が与えられる。

○京王杯スプリングカップ（GⅡ）

本競走は、1956年に創設された重賞競走。当初は『スプリング・ハンデキャップ』の名称で、4歳以上馬による芝1,600mの重賞競走として、3月に実施されていたが、幾度かの実施距離や実施時期の変更を経て、現行の配置となった。

なお、第1着馬には同年の『安田記念』への優先出走権が与えられる。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○府中ステークス

府中（ふちゅう）は、東京都中央部の市。市の南端には多摩川が流れ、北部は立川段丘が広がっている。大化の改新により武蔵国府が置かれて以来、行政の中心地となった。また、江戸時代には甲州街道の宿場町、大國魂神社の門前町としても栄えた。現在は衛星都市として発展している。

なお、同市は東京競馬場の所在地でもある。

○ブリリアントステークス (L)

ブリリアント (Brilliant) は、「輝かしい」「鮮やかな」を意味する英語。ダイヤモンドの研磨方式の一種にブリリアントカットがあり、その研磨方式によって作られる58面体のダイヤモンドは理想のカットと言われている。

○プリンシパルステークス (L) (ダービートライアル)

本競走は、1996年に創設された、『東京優駿 (日本ダービー)』のトライアル競走。ダービートライアルとして実施されていた『NHK杯』が『NHKマイルカップ』に変更されたことに伴い創設された。当初は距離2200mの定量で実施されていたが、2003年より2000mの馬齢重量に変更となった。なお、第1着馬には『東京優駿 (日本ダービー)』への優先出走権が与えられる。

プリンシパル (Principal) は、「最も重要な人」「主役」を意味する英語。バレエ団において主役クラスのダンサーを指す言葉としても知られている。

<第5日>

○分倍河原ステークス

分倍河原 (ぶばいがわら) は、東京都府中市の多摩川沿岸の旧地名。かつて鎌倉幕府軍と反幕府軍との間で戦いが行われた地として知られている。京王電鉄、JR分倍河原駅前には、反幕府軍を率いた新田義貞の像が建てられている。

○青竜ステークス

青竜 (せいりゅう) は、中国に伝わる神獣。天の四方の方角を司る四神のひとつであり、東を守護する。めでたいことの印としても知られている。

○エプソムカップ (GⅢ)

本競走は、イギリスのエプソム競馬場との交換競走として創設された重賞競走。1983年に『東京優駿 (日本ダービー)』が50回を迎えたことを機に、東京競馬場と『英ダービー』を開催するエプソム競馬場が姉妹競馬場として提携し、その翌年の1984年から実施されている。創設以来、ハンデキャップ戦として実施されてきたが、1996年から別定重量戦に変更され、実施されている。

エプソム競馬場は、ロンドンから南に約30kmのサリー州エプソムダウンズにある競馬場。同競馬場では、『英ダービー』の他、『英オークス』『コロネーションカップ』などが実施されている。

<第6日>

○日吉特別

日吉（ひよし）は、東京都府中市の町で、東京競馬場の所在地。地名は、現在の東京競馬場所在地にあった日吉神社（現在は馬頭観音付近に移築）に由来する。町域全てが東京競馬場とその関連施設となっている。

○メトロポリタンステークス（L）

メトロポリタン（Metropolitan）は、「首都の」「大都市の住民」を意味する英語。

○NHKマイルカップ（G I）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。1995年までダービートライアルとして実施されていた『NHK杯』を前身とする。世界的に競馬のスピード化が進み、短い距離の成績もより重要視されるようになってきたことや、当時クラシック競走に出走できなかった外国産馬の目標となる競走がなかったことを背景に創設された。それに伴い、同年には3歳馬競走における短距離の競走体系も整備された。

NHKは、東京都渋谷区に本部を置く公共放送局。日本放送協会の略称。本競走は、同協会より寄贈賞を受けて実施されている。

○立夏ステークス

立夏（りっか）は、二十四節気のひとつ。春分と夏至の中間にあたり、旧暦ではこの日から夏が始まる。

<第7日>

○調布特別

調布（ちょうふ）は、東京都中央部の市。東西を京王線や甲州街道、中央自動車道が通り、都心へのアクセスが良好なため衛星都市として発展している。また、深大寺をはじめとする多くの寺社や史跡が残されている。

○立川特別

立川（たちかわ）は、東京都中央部の市。南部に多摩川、北部に玉川上水が流れ、市の中心部には広大な国営昭和記念公園や立川飛行場がある。

なお、同市にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ立川がある。

○六社ステークス

六社（ろくしゃ）は、東京競馬場に近接する大國魂神社の別称。武蔵大國魂神を主神とする神社で、八神を祭り、うち六神は武蔵国の有力神であることから、六所宮や六社明神とも言う。5月5日の例大祭は、深夜に町中の灯が消され、その暗闇の中を8基の神輿が御旅所まで渡御することから、くらやみ祭と呼ばれている。

<第8日>

○テレ玉杯

テレ玉は、テレビ埼玉の愛称。テレビ埼玉は、埼玉県さいたま市に本社を置く1979年4月開局の放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○青梅特別

青梅（おうめ）は、東京都北西部、多摩川の中流域の市。江戸時代には青梅街道の宿場町として栄えた。現在では、青梅マラソンが行われることでも有名。

○ヴィクトリアマイル（G I）

本競走は、2006年に創設されたG I競走。従来、生産の原点である牝馬は、早期に生産界へ還元することが望ましいと考えられていたため、古馬牝馬の目標となる競走の編成は長らく見送られていた。しかし、1996年以降、『エリザベス女王杯』の古馬牝馬への開放や古馬牝馬重賞競走の増設およびローテーションの整備によって、競走馬として長く活躍する牝馬が多くなった。また、そうした牝馬からも優良な産駒が誕生するようになったことから、生産界における考え方にも変化が生じてきたため、春に古馬牝馬の目標となる競走として、本競走が創設された。

ヴィクトリア（Victoria）は、ローマ神話に登場する勝利の女神のこと。

○BSイレブン賞

BSイレブンは、日本BS放送株式会社が放送するBSデジタルハイビジョンのチャンネル名。同社は、東京都千代田区に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第9日>

○カーネーションカップ

カーネーション（Carnation）は、ナデシコ科の多年草。南ヨーロッパおよび西アジアが原産。花の色はピンク・赤・白など多彩。母の日に日頃の感謝の思いを込めてカーネーションを贈るという習慣は、世界中で定着している。花言葉は「感動」「純粋な愛情」。

○高尾特別

高尾（たかお）は、東京都八王子市の地名。高尾山の東麓にあり、多摩御陵などがある。高尾山は、関東山地の東縁に位置する標高599mの山。中生代の粘板岩などからなる。多くの動植物を見ることができ、明治の森高尾国定公園に指定されている。

○欐ステークス

欐（けやき）は、ニレ科の落葉大高木。街路樹や庭木として栽植されている。葉は鋸歯があり狭卵形で先が尖っている。春には淡黄緑色の小花を咲かせ、ゆがんだ球形の小果を結ぶ。材は堅く木目が美しいので、建材・家具材などに用いられる。また、東京競馬場のある府中市の「市の木」でもあり、大國魂神社のケヤキ並木は、国の天然記念物に指定されている。

<第10日>

○三峰山特別

三峰山（みつみねさん）は、埼玉県南西部の秩父山地の山。本来は妙法ヶ岳・白岩山・雲取山の総称だが、一般的には三峯神社のある辺り、あるいは妙法ヶ岳を指す。

○国分寺特別

国分寺（こくぶんじ）は、東京都中央部の市。武蔵国分寺跡などの史跡が残る他、市街地には湧水と清流が残っている。

○フリーウェイステークス

フリーウェイ（Freeway）は、高速道路を意味する英語。東京競馬場の向正面後方には、中央自動車道が走っている。

なお、本競走の本馬場入場曲に使用される、歌手荒井（松任谷）由実の曲「中央フリーウェイ」の歌詞「右に見える競馬場 左はビール工場」の「競馬場」とは、東京競馬場のことであり、「ビール工場」とは競馬場近くに位置するサントリービール工場を指している。

○優駿牝馬（G I）（オークス）

本競走は、イギリスの『オークス』に範をとり、1938年に『阪神優駿牝馬』の名称で創設された重賞競走。当時は、我が国と競馬先進国で、3歳牝馬の成長度に半年程度の差があると考えられていたため、秋に実施されていた。1946年に開催場を東京競馬場に変更したことを機に、現在の『優駿牝馬』に改称。1953年には実施時期を諸外国と同様の春に変更し、実施されている。

オーク（Oak）は、欐を意味する英語。『英ダービー』の創設者である第12代ダービー卿エドワード・スミス・スタンレーは、欐の森が茂るオークスと呼ばれる土地を所有していた。1779年、彼はエリザベス・ハミルトンと結婚した際に、その記念として競馬を開催することを思い立ち、その中に夫人の希望を入れ、3歳牝馬のレースを行い、これを『オークス』と名付けたと言われている。

○丹沢ステーキス

丹沢（たんざわ）は、神奈川県北西部にある丹沢山（標高1,567m）を中心とする丹沢山地のこと。同山地は、東西約40 km、南北約20 kmで神奈川・静岡・山梨の3県にまたがっており、関東山地の南部地域にあたる。北は桂川断層谷で秩父山地に接し、一帯には断層が多い。

<第11日>

○富嶽賞

富嶽（ふがく）は、日本最高峰である富士山の異名。江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎は「富嶽三十六景」の中で、各地から望む富士山の景観を描いている。中でも赤富士を描いた「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」「山下白雨」などが有名。

○葉山特別

葉山（はやま）は、神奈川県三浦半島西岸にある町。南北4kmに及ぶ海浜は、岩礁や富士山、箱根などの遠景と相まって優れた眺望を誇っている。また、保養地として有名で、1894年に葉山御用邸が建てられた他、日本におけるヨットの発祥地でもあり、付近にはマリンスポーツの施設が多い。

○アハルテケステーキス

アハルテケ（Akhal - Teke）は、トルクメニスタンが原産の馬の品種で、別名「黄金の馬」と呼ばれている。

なお、京王電鉄競馬場線「府中競馬正門前駅」の入口には同馬の銅像が建てられている。

<第12日>

○青嵐賞

青嵐（あおあらし）は、青葉の頃に吹き渡るやや強い風のこと。また、初夏に吹く南風の雅語。

○薫風ステーキス

薫風（くんぷう）は、初夏に南から吹く、若葉の香りを漂わせた爽やかな風のこと。

○むらさき賞

むらさきは、ムラサキ科の多年草。全体に粗毛があり、根は太く、茎の高さは50cmほどになる。葉は披針形で、初夏から夏にかけて白い花を咲かせる。乾くと紫色になる根は古くから紫色の染料として使用される他、漢方として解熱・解毒・皮膚病の薬などに用いられ、武蔵野一帯では古くから親しまれている。

○東京優駿（G I）（日本ダービー）

本競走は、1932年にイギリスの『ダービー』に相当する3歳馬の大レースとして、東京競馬倶楽部により『東京優駿大競走』の名を冠して創設された競走。『皐月賞』、『菊花賞』と共に3歳クラシック3冠競走を構成している。

1780年、第12代ダービー卿エドワード・スミス・スタンレーらにより、イギリスのエプソム競馬場で彼の名を称した3歳牡牝混合競走の『ダービー』が創設され、現在では3歳馬の頂点を決める競走として、揺るぎない地位を確立している。

長い歴史を持つ前述の『ダービー』に範をとって、現在、世界各国でもダービーが行われている。サラブレッド生産を伴う競馬先進国には、必ずダービーにあたる競走があり、その中でもヨーロッパにおける『愛ダービー』や『仏ダービー』、北米の『ケンタッキーダービー』などが国際的にも重要な競走とされている。今日では“競馬の最大の祭典”として、競馬ファン以外の人々にも広くその名を知られている。

○農林水産省賞典目黒記念（G II）

本競走は、1932年に創設された重賞競走。日本におけるハンデキャップ競走としては最も古い歴史を持つ。1925年の秋に目黒競馬場で実施された芝3400mの『各内国産抽籤豪州産馬混合競走』が前身で、同競馬場の府中への移転が決まった際、「目黒」の名を永く後世に伝えるため、『目黒記念』と改称された。1950年秋からは距離が2500mに短縮され、1984年には春秋2回の実施から年1回の実施となり、現在に至る。